

令和3年度シラバス（家庭）

学番 30 新潟県立中条高等学校

科目名	家庭総合	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	実教出版 「新家庭総合パートナーシップでつくる未来」		授業形態	必修	
副教材等	なし				

1 学習目標（科目のねらい）

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導計画（時期、単元、学習内容、配当時間、考査等）

月	授業計画と授業の内容	時間	月	授業計画と授業の内容	時間
4	人とかかわって生きる 第1章 自分らしい生き方と家族 生涯発達の視点で青年期の課題を理解し、男女が協力して家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考える。	10	11	人とかかわって生きる 第2章 子どもとかかわる 乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解し、子どもの発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割について認識する。	12
5			12		
6	生活をつくる 第2章 衣生活をつくる				
7	被服管理に必要な被服材料、被服構成などの基礎的、基本的な知識と技術を習得する。 被服製作	28	1	人とかかわって生きる 第3章 高齢者とかかわる 高齢者の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解する。	8
8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 家庭科の学習を通して得た知識・技術を活かし、生活の課題を解決する。（夏期休業課題）				
9				第4章 社会とかかわる 家庭と地域とのかかわりについて理解し、様々な人々が共に支え合って生きることの重要性を認識する。	6
10			2		
			3		

計64時間（55分）

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・福祉、衣食住などについて、関心を持ちその充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。	家庭生活に課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し創造する能力を身に付けている。	家庭生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭生活を充実向上するために必要な基本的な知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、定期考査・課題・提出物・授業態度等から総合的に評価します。			

4 担当者から一言

家庭科は家庭や身近な生活に関する学習を中心に、私たちが健康で文化的な生活を営むことができる能力や態度を育てる教科です。楽しみながら学習を深めていきましょう。（担当：眞貝）

令和3年度シラバス（家庭）

学番 30 新潟県立中条高等学校

科目名	家庭総合	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版 「新家庭総合パートナーシップでつくる未来」		授業形態	必修	
副教材等	なし				

1 学習目標（科目のねらい）

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導計画（時期、単元、学習内容、配当時間、考査等）

月	授業計画と授業の内容	時間	月	授業計画と授業の内容	時間
4	生活をつくる 第1章 食生活をつくる 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養、食品、調理及び食品衛生などの基礎的、基本的な知識と技術を習得する。 調理実習5回程度	28	11	第2章 経済的に自立する 家計の仕組み特徴を知り、予算生活の必要性について理解する。主体的な消費行動の重要性を理解する。	8
5			12		
6			1	人とかかわって生きる 第3章 高齢者とかかわる 高齢者の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解する。	6
7					
8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 家庭科の学習を通して得た知識・技術を活かし、生活の課題を解決する。（夏期休業課題）			生活をつくる 第3章 住生活をつくる 住居の機能、住居と地域社会とのかわりなどに必要な基礎的、基本的な知識と技術を習得する。	6
9			2		
10	消費者として自立する 第1章 消費行動を考える 消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解する。 （ホームプロジェクト）環境に優しい買い物（環境負荷に配慮した消費生活）について考察させる。	10	3	第4章 社会とかかわる 家庭と地域とのかかわりについて理解し、様々な人々が共に支え合って生きることの重要性を認識する。	6

合計64時間（55分）

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・福祉、衣食住などについて、関心を持ちその充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。	家庭生活に課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し創造する能力を身に付けている。	家庭生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭生活を充実向上するために必要な基本的な知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、定期考査・課題・提出物・授業態度等から総合的に評価します。			

4 担当者から一言

家庭科は家庭や身近な生活に関する学習を中心に、私たちが健康で文化的な生活を営むことができる能力や態度を育てる教科です。楽しみながら学習を深めていきましょう。（担当：本間）